

■職員インタビュー

2015年11月25日(水) 国連ハビタット福岡本部を訪れ、人間居住専門官でありますラクスマン・ペレラ氏にインタビューを行いました。

ラクスマン・ペレラ氏はスリランカ生まれで、大学院卒業後、22年間にわたりスリランカ政府にて、都市開発、住宅建設、水道事業、災害復興支援、コミュニティ開発等の事業に携わりました。2009年に国連ハビタットでスリランカ事務所にハビタット・プログラム・マネージャー(HPM)として着任し、2014年にミャンマー事務所副所長を歴任なさいました。2015年8月より現在福岡本部にて人間居住専門官として、ベトナム、カンボジア、パキスタン、バングラディッシュの国々を担当されています。



そのような経歴のラクスマン氏にインタビューをおこないましたので、その内容を紹介します。なお、通訳として、福岡本部の熊谷さんが協力してくださいました。突然のお願いにも関わらず、通訳の対応をして頂きましてありがとうございます。

○ミャンマーではどのようなプロジェクトがありましたか？

都市部における能力向上の開発事業、減災、土地管理、コミュニティインフラの改善などです。所長という立場なので、一つの事業に携わるよりは全般的に携わりました。

○現在のミャンマーの課題と将来性について教えてください。

まず、都市化の問題があります。ミャンマーは都市化が進むとともに、地方からの人口流入が著しく、基本サービスが行き届いていないです。他にも、住宅問題や交通問題、土地管理制度の欠落や都市計画の能力の不足があります。○これまでの経験の中で、最も印象に残ったプロジェクトは何ですか。

日本政府支援で行っている少数民族の事業です。少数民族は都市部から離れて住んでおり不自由をしていたが、コミュニティインフラ(生活道路や水の衛生、学校建設、小さな太陽光の設置等)を改善したり生計支援や技術支援をしています。そのように、大人から子供まで困っている人々を支援したことは印象に残っています。

○趣味は何ですか。

ドライブと、動物園ではなく自然の中で育つ動物を観ることです。スリランカでは、6~7つ動物の成育地がありゾウやヒョウで有名なところがありました。

○今後の抱負と夢は何ですか

都市部の貧困層の支援です。自分の経験を色々な国の人と共有して解決していきたいです。住宅環境の改善や、基本サービスへのアクセスなど人々が使える新しいモデルを開発して構築していきたいと考えてます。

編集後記

だんだん風も寒くなり、本格的な冬が訪れましたが会員の皆様はいかがお過ごしでしょうか。ニュースレターの編集は今回で2回目ですが、記事をまとめて、紙面に丁度いい文字数と写真サイズにするのが意外に難しかったです。牟田さんがずっと編集をされていたのですが、編集の大変さをやってみて実感しました。また、事務局長を務めてまもなく1年となりましたが、このように活動できているのは皆さんの協力があったからこそだと考えてます。まだまだ未熟ではありますが、来年もよろしく願いいたします。(前田)

紙面の都合上一部のみの紹介となりましたが、他にも奨学金を利用し新潟の大学に行ったお話や、小さな太陽光を写真で紹介して頂いたり楽しい雰囲気インタビューすることができました。お忙しいなか対応して下さったラクスマン氏と、通訳して頂きました熊谷様本当にありがとうございました。

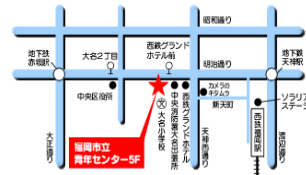


■2016年のスケジュール

- 1月20日(水) 定例会
- 2月1日(月) 第30回ハビタットひろば
- 2月17日(水) 総会
- 3月16日(水) 定例会
- 4月1日(金) 第31回ハビタットひろば
- 4月20日(水) 定例会
- 5月18日(水) 定例会
- 6月1日(水) 第32回ハビタットひろば
- 6月4日5日 AFRIKUOKA
- 6月15日(水) 定例会
- 7月 市民の会主催シンポジウム
- 7月20日(水) 定例会
- 8月1日(月) ハビタットひろば
- 8月17日(水) 定例会
- 9月 スタディツアー
- 9月21日(水) 定例会
- 10月 ハートフルフェスタ
- 10月1日(土) ハビタットひろば
- 10月3日(月) 世界ハビタットデー
- 10月19日(水) 定例会
- 11月 地球市民どんたく
- 11月16日(水) 定例会
- 12月14日(水) 定例会※第2水曜日

☆日程は、変更になることがあります。直前に、Facebookやメールでお知らせします。

☆定例会の会場は、原則として福岡市NPOボランティア交流センター「あすみん」(右図)で行います。参加お待ちしております。



事務局・お問い合わせは

郵便物のあて先は：
〒838-0134 小郡市下西郷坂 1493 牟田慎一郎宛
お問い合わせは：
TEL：090-6770-2481(牟田)
FAX：0942-41-2080
E-mail：muta@ktarn.or.jp
Facebook：ハビタット福岡市民の会
HomePage：http://cnhf.web.fc2.com



46号の主な内容

- 地球市民どんたく
- ハビタットひろば
- ハビタットデー
- 環境技術専門家会議
- 職員インタビュー
- 今後のスケジュール

第46号
http://cnhf.web.fc2.com

■地球市民どんたく2015



2015年11月14日(土)~15日(日) アクロス福岡2階交流ギャラリー・セミナー室2にて、「国際協力フェスタ 地球市民どんたく2015」が開催され、私たちハビタット福岡市民の会もブースを出展しました。今回は、運営委員の中川さんが本フェスタの代表実行員委員となり、長期間に渡り、地球市民どんたく実行委員会と、出展団体の皆さんと打ち合わせを重ね、協力して準備を進めていただきました。福岡を拠点に活動している国際協力・国際交流団体が集まり、各々のブースを出展しているので、広く国際協力に興味のある参加者にとっては、ありがたいイベントではないでしょうか。各ブースが一つクイズを出



題し、全ブースを回り正解すると、最後に景品がもらえるスタンプラリーも実施しており、通りがかりの親子連れの方々にも好評でした。私たちハビタット福岡市民の会は、国連ハビタット福岡本部の活動を市民に広めるという活動内容に則って、「国連ハビタット福岡本部の事務所があ

る県はどこか？」というクイズを出題しました。ブースに来られたみなさんは、にこやかにクイズに答えていただいて、中にはウン、と頭を悩ませる御子さんもいらっしゃり、クイズを通して市民のみなさんと楽しく交流できました。国際協力のこと、国連ハビタットのことをあまりご存知でない御来場者の方も多くいらっしゃり、この機会に市民広報活動ができたことを嬉しく思います。また、一日目には代表の牟田さんのハーモニカ演奏も行われました。タイミングよく来日された牟田さんの里子のご家族もいらっしゃり、スリランカのお父様の即興独唱も披露されました。スリランカの歌声に、会場は熱気で包まれました。また、個人的にも空いた時間に他の出展団体のブースを廻ることができ、福岡の国際交流の取り組みについて学べ

た、良い機会でした。来年は屋外での開催を検討されているそうです。来年も、本年に負けないうくらい盛況な活動にしていこうと思います。当日までみなさんを纏めてくださった中川さん、ご参加くださった皆さん、ありがとうございました。(江藤美紗)

■ハビタットデー2015

10月第一月曜日は世界ハビタット・デーに指定されています。それに併せ10月5日、福岡アクロスにて「世界ハビタット・デー2015 福岡国際ワークショップ」が開催されました。



冒頭、深澤本部長より開会挨拶が行われ、ハビタット・デーの意義を話し、「Designed to live together ~世界の人々が共に暮らすために私たちができる国際協力とそこから学ぶこと~」

をテーマに世界各地の人々の暮らしの中で国際協力活動を行ってきた人々の話を聞き、世界の人々がおかれている現状や、共に快適に暮らすために自分たちができることについて考えるワークショップを、福岡女子大学の和栗准教授がファシリテーターを務め進行されました。

ファシリテーターゲストとして 国連ハビタット福岡本部 人間居住専門官 ラクスマン・ペレラさん、「地球人として、地球人のために」と題し一般財団法人カンボジア

地雷撤去キャンペーンの大谷賢二理事長、生ごみをたい肥化する段ボールポストを普及されている NPO 法人循環生活研究所のたいら由以子理事長、島おこしと青少年育成活動をされているのこのしま自然農園の伊高 哲郎氏がそれぞれ自分の実体験を基にお話しをされました。

ゲストの話の後、4人のスピーカーが話された内容で発見したことを考え、

①世界の人々が「共に暮らす」ってどういうことだろう？
②多様な「国際協力」のために自分ができる/したいことの2テーマを1テーブル4～5人の10テーブルチームでそれぞれ post it と模造紙を使用して話し合いました。私の居たテーブルには設計事務所勤務の方、現役女子大生、ハビタット職員の方々がおられそれぞれの観点で話された内容は新鮮でしたし、コミュニケーションも取れて楽しく良かったです。

最後に参加者全員で演台近くに集まり集合写真を撮りました。国際協力について考え、いろんな方々と話せて充実した2時間半のワークショップでありました。(山前隆)



■ハビタットひろば

国連ハビタット福岡本部が(財)福岡県国際交流センターと合同でアクロス福岡3F のこくさいひろばで偶数月の1日に開催している合同レクチャーシリーズ「ハビタットひろば」の報告です。

●第27回「ネパール大地震における国連ハビタットの活動」

2015年8月1日(土)に国連ハビタット福岡本部の本部長をされてます深澤良信氏が、ネパール大地震における国連ハビタットの活動について講演しました。

地震は、都市部よりも周辺部に被害が大きく約60万戸が全壊、約30万戸が半壊でした。また、5000ある小学校のうち、全壊が1500に上ります。日本政府は、学校再建を中心に支援しています。

国連の大事な仕事はデスクワークです。例えば、さまざまな国から支援物資が届いても、必要なものが届かず、テントばかり届いても困ります。そのため、国連は国の政府と対応し、ざっくり必要なものを把握し情報を取りまとめます。ハビタットは住宅被害の専門機関であり、その分野の予算がおかしい数字でないかチェックしています。

国連は、今回の地震で4億ドル相当の緊急物資が必要だと判断し、国際社会へ支援をお願いするようになりました。なお、九州各地で寄せられた募金は、ビニールシートやリュック型の浄水器などの緊急支援物資に使われました。また、ハビタット協力委員会やほまれの会からも多額の資金が集まり、主に水や衛生に関する支援に使われました

当初は緊急支援が行われましたが、その後は復興支援が行われました。復興支援に関しては国際社会の支援は67億ドル必要と算定され、居住部門はその半分でした。

住民主体の災害復興で大切なことは以下の通りです。
・コミュニティに出かけ支援に必要な人を決めてもらう
・コミュニティとして計画してもらう(自分たちで決めてもらう)
・心の復興につながる(自分たちで復興することにより)ネパールの支援がどのように行われたのかよくわかり、またハビタットがどのような役割を果たしたのかが分かる講演でした。今後の、ネパールの復興と発展には注目しておきたいと思いました。(前田直樹)

た、ハビタット協力委員会やほまれの会からも多額の資金が集まり、主に水や衛生に関する支援に使われました

当初は緊急支援が行われましたが、その後は復興支援が行われました。復興支援に関しては国際社会の支援は67億ドル必要と算定され、居住部門はその半分でした。

住民主体の災害復興で大切なことは以下の通りです。

・コミュニティに出かけ支援に必要な人を決めてもらう
・コミュニティとして計画してもらう(自分たちで決めてもらう)

・心の復興につながる(自分たちで復興することにより)ネパールの支援がどのように行われたのかよくわかり、またハビタットがどのような役割を果たしたのかが分かる講演でした。今後の、ネパールの復興と発展には注目しておきたいと思いました。(前田直樹)



●第28回「Urban Transformation (変容する都市) - ヤンゴン市」

2015年10月1日(木)国連ハビタット福岡本部に人間居住専門官として着任したラクスマン・ペレラ氏が、ミャンマーのヤンゴン市の現状について講演しました。

現在のヤンゴン市が力を入れている事は、都市政策の強化と投資を呼び込むこと、さらなる提携を結び機会を増やすこと、JICAやアジア開発銀行の支援、遺産を残していく計画などです。

ヤンゴン市は、水、衛生問題、公共交通、廃棄物、住宅事情で課題がありそれぞれ対策を見出しているところです。2～3年のうち、ハビタットの支援として強化していきたいことは、国に対しては都市戦略、住宅計画の政策提言や技術的支援、ヤンゴン市に対しては都市計画、建築基準法の制定、コミュニティと都市の連携、技術者の育成、農業開発の協力、防災に関して他の国々との連携や、情報提供などです。

私は、ヤンゴン市は急速に変容している反面、課題は幾つもあることなど初めて知りました。今回のお話は、今後のヤンゴン市とそれに関するプロジェクトに、一層関心を持ったとてもいい機会となりました。(前田直樹)

●特別編「ネパール大地震からの復興」



11月18日(水)アクロス福岡3階こくさいひろばにて、ハビタットひろば特別編「ネパール大地震後の復興」が開催されました。講演者は、パドマ・サンダー・ジョシ(国連ハビタット・ネパール事務所長・ハビタットプログラム・マネージャー)でした。

ハビタットはネパール地震の発生直後から支援を開始しました。支援の内容は資金調達(モーションという民間企業や「いのちと水事業」など)、ボランティアの動員、緊急シェルターを通じた緊急支援、防水シートや水と衛生に関するツールの配布、住宅クラスターや人道支援カントリーチームの調整、災害後のニーズ評価策定への助言等です。

ハビタットは、必要なものを用意するという仕組みで支援を行います。そのため、緊急シェルターは受益者住民が自分で建てることになってます(コミュニティアプローチ)。また、九州からの義援金は冬越しの準備支援(キッチンストーブ、湯たんぼ、防水シート)として活用され、1,000世帯を支援しました。

今後の課題は、インドの経済封鎖で復興が滞っていることや、更なる人道支援が必要ということがあげられました。

私は、「いのちと水事業」がネパールの復興にも充てられているとき、支援は身近なところからできると思いました。ネパールの復興に関心を持つとともに、多くの人に「いのちと水事業」を知って頂きたいと思います(前田直樹)



●第29回「大学生がスリランカで見た国際協力活動」

12月1日に、第29回ハビタットひろばが「大学生がスリランカで見た国際協力活動」のテーマで行われました。福岡県が開催する「国際協力リーダー育成プログラム」に応募した県内6名の大学生達が、スリランカ・キリノッチでのハビタットプログラムに参加して、現地で体験したことや学んだことが報告されました。

スリランカでは内戦があり、避難民となった人々が、キリノッチに戻っても住宅も無いために、ハビタットが住宅や幼稚園やコミュニティセンター等の再建のプロゼクトを実施しています。学生達の報告は以下のような内容でした。「ただサポートするだけでは無く、その地域に合わせたサポートのあり方はどうあるべきかを考えた」。学校の再開については「どこの国の親達も子供達のことを考えていて、子供達への教育が必要だと感じた」。現地のゴミの山を前にして「ゴミ処理の問題が大きく、これからの環境教育が大事となる」。現地のモラトゥク大学生との交流では「言葉の壁を超えてコミュニケーションをするには、自分を開くことが大事」。畜産振興には「牛へのワクチン接種や人口受精の方法やり方には、アニメーターの仕事の役割が大きい」。また「国連ハビタット、JICA、NGO等



の組織の違いによる、支援の違いについて考えた」等の報告がありました。

学生達の報告の後には、会場から「こうした体験をした後で、皆さんは今後どのような道を進まれるか？」との質問がありました。この質問に対して、6名はそれぞれに、国際協力活動に進むための自分のステップのあり方での、迷いや悩みそして決意を述べていました。私は、若い人達が自分の夢や希望に向かって、あせること無く一歩一歩前進して欲しいとの思いを持ちました。(増田元邦)

■環境技術専門家会議

2015年11月16日(月)から17日(火)にかけて、博多エクセルホテル東急で「第7回環境技術専門家会議」が開催されました。

テーマは「防災～アジア太平洋地域における持続可能な環境開発のための技術協力を考える～」として、アジア太平洋地域の各国から自治体関係者、国連ハビタットの現地事務所長などの専門家が参加されました。

会議では、アジアの各国からは、自然災害の経験や災害リスクについての現状や課題について報告がある一方、国交省や北九州市、福岡市、日本の企業からは、防災分野における先進的な技術や取り組みの紹介がありました。

質疑応答では、各国からたくさんの質問が飛び交い、時間いっぱいまで意見交換が行われました。参加されたアジアの専門家たちは、口々に日本の自治体の防災に関する取組みに感銘を受けたと述べ、これからのそれぞれの国における取組みに生かしていきたいと語っていました。

なお、今回の会議は「アジアのニーズと日本の環境技術のお見合いのような会議」といわれており、日本の技術がアジアの防災に役立つ日がくるのではと思いました。(前田直樹)

■ハビタット福岡本部ツアー



8月17日、第2回の国連ハビタット福岡本部スタディツアーを実施しました。

高校生12名、中学生1名、大学生1名、一般1名が福岡本部の会議室に集まり、熊谷さんより国連ハビタットの役割や活動に関するレクチャーを受けた後あと、3チームに分かれて、ピープルズプロセスに関するワークショップを行い、それぞれ結果を発表するなど貴重な体験をし、有意義な時間を過ごしました。(牟田慎一郎)

8月17日、第2回の国連ハビタット福岡本部スタディツアーを実施しました。高校生12名、中学生1名、大学生1名、一般1名が福岡本部の会議室に集まり、熊谷さんより国連ハビタットの役割や活動に関するレクチャーを受けた後あと、3チームに分かれて、ピープルズプロセスに関するワークショップを行い、それぞれ結果を発表するなど貴重な体験をし、有意義な時間を過ごしました。(牟田慎一郎)

